

初志をいつまでも忘れず
行動し続けます。

西宮市議会議員

まさたけ

田中正剛

市政・市議会報告

<http://www.masatake.jp/>



初当選から10年、強い意志と地道な行動で着実に政策実現。

おかげさまで初当選から10年、この報告書も36回目の発行となります。

少しでも皆さんに市政の現状を知ってもらい、

皆さんとともに政策を実現したいと思って行動し続けています。

すべては、将来の西宮を創造するために。

6月議会報告

～議会内の役職や担当委員会が変わりました～

2年間、新たな挑戦の連続だった病院問題特別委員長の任務

■病院問題特別委員長の任務終了

2年間、病院問題特別委員会の委員長を務め、6月議会の改選で任務が終了しました。私は、初当選の時から、議員同士が政策を議論できる環境づくりを重点政策としてきました。後半の1年間は、月に2回の頻度で委員会を開催し、「公立病院の役割」や「新病院基本構想」などについて、シナリオなしで議員間の議論を深め、各会派の意見を集約しました。また、中央病院の経営健全化に関する決議の可決、専門家を講師に招いた勉強会の開催(昨年2回)など初挑戦の連続でした。市の医療政策なき市立病院の運営は、将来の負の遺産となりかねません。今後、これまでの議論を踏まえ、将来の社会環境や医療需要の変化を考慮し、病院の移転についての賛否を決断してまいります。

■議会改革特別委員会委員に就任

2年ぶりの就任となります。現行の地方自治法では、4年に1度しかできない「議員定数の削減」はもちろんのこと、形だけではない真の議会改革、市民の意思を政策として実現できる議会を目指して、改革を提案してまいります。

■阪神水道企業団の監査委員に就任

西宮市は、南部地域の9割以上の家庭に対する水道水の供給を一部事務組合である「阪神水道企業団」に依存しています。今後の水道水の安定供給のために、主に経営の効率化と施設の老朽化対策、防災対策に重点を置いて企業団の経営を監査してまいります。

なお、これからの1年間も、常任委員会は市民文教常任委員会を担当します。

今後の超高齢化社会に対応するための交通政策が必要です。 「西宮市総合交通戦略」の中で、将来ビジョンと必要財源を明示すべきと主張。

高齢化が進み、ますます限られてくる財源で、より効率的に計画的に交通環境の変化に対応する必要があります。しかし、西宮市は、個別の交通課題の解消に終始し、総合的な政策がありません。そこで、平成20年12月議会で、「成熟社会における交通政策について」取り上げて以来、総合的な交通計画を策定する必要性を主張してまいりました。そして、ようやく今年度から「西宮市総合交通戦略」が策定されることとなりました。

現在、バス路線の充実や新駅の設置に関する住民要望、自転車の安全対策、歩行者の安全対策、渋滞解消、道路整備など課題は山積しています。そして、超高齢化による歩行者や電動車いすの増大、きめ細かな公共交通機関の需要の増大など

人口の年齢構成の変化に伴う移動手段の変化や、税収の減少など社会環境が大きく変化することが予想されます。ですので、現在の交通課題を網羅的に把握し、将来の社会環境の変化による交通需要予測のもと長期的な方向性を定めて取り組む必要があります。そして、計画の実施に必要な財源も明示し、実現可能な計画を策定しなければなりません。そこで、これから策定する戦略について質問しました。

市は、計画期間を20年程度とし、具体的で説明力の高い交通需要の予測のもとで計画を策定すると回答しましたが、財源を明示することについては言及しませんでした。引き続き、西宮市都市交通会議での議論など動向を注視してまいります。

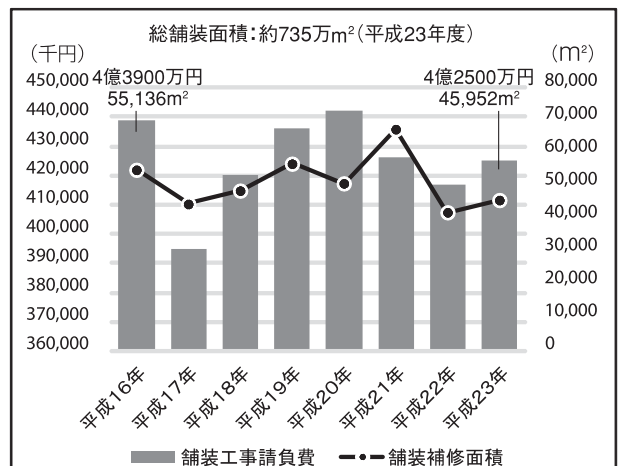
道路も維持管理の時代へ。将来の安全のために補修財源の積立てを主張。

近年の舗装補修に要した工事費と補修面積の推移はグラフのとおりとなっています。近年、道路管理の瑕疵により、通行人が大きなけがをする事故も生じています。舗装の耐用年数を勘案すると近い将来には、今の数倍の財源が必要となる可能性を秘めており、現在の場当たり的な対応では、適正に道路管理ができなくなる恐れがあります。そこで、道路の維持管理に主眼を置いた「道路アセットマネジメント計画」を策定し、今後の必要財源を試算したうえで積立てを始めることを提言し、歩道の傾斜や波打ちの解消など歩道のバリアフリー化事業の今後の計画について質問しました。

市は、バリアフリー化について、大浜老松線の樋之池町部分の歩道の拡幅整備などを計画的に推進し、道路舗装・道路照明灯・交通安全施設に関する「維持更新計画」を策定することで、全体事業費の把握に努めながら取り組むとの回答を得ました。

今後も、歩行者の安全対策に主眼を置き、道路整備について取り組んでまいります。

その他、交通政策として、渋滞対策、今年度策定予定の「無電柱化計画」、バス路線の充実に向けた取り組みについても議論しました。



補修面積が全体舗装の1%にも満たず、このペースでは全ての舗装を補修するのに100年以上がかかる計算に。

その他、「図書館の開館時間」について取り上げ、北口図書館同様、9時開館に向けて取り組むべきと主張しました。市はニーズ調査を行い、費用対効果も勘案して判断すると回答しています。

提言を実現へ② ～スポーツ推進計画

6月議会一般質問にて、5年前に策定の必要性を指摘し、現在、策定作業が進められているスポーツ推進計画について取り上げました。

スポーツによる子どもの育成、自己実現、市民の健康増進、介護予防など。 スポーツ政策にもまちの特性を活かした理念や明確な目標が必要と主張。

■甲子園球場がある文教住宅都市・西宮

子どもたちの野球の競技力の向上に対する支援として、練習場所の確保について取り上げました。現在は、曜日・時間帯ごとの施設の利用状況や抽選倍率を把握しておらず、どの程度不足しているのか分析すらできていません。また、限られた財源のなかで、施設の老朽化対策すらままならない状況の中で、新たな施設を整備していくには財政的に限界があります。ですので、夜間利用も含めた学校グラウンドの一層の活用や、当面利用する見込みのない公共用地(遊休地)の一層の活用について質問しました。教育委員会の回答は、今あるスペースをなんとか工夫して使うという発想に欠ける消極的なものでした。今後、一定の面積をもつ公園の利用も含めた環境整備など、

練習場所の確保について取り組んでまいります。

■スポーツクラブ21の活性化

地域のコミュニティ活動においても大きな役割を担っているスポーツクラブ21は、設立当時(平成17年度)は16,889人であった会員数が、平成24年度には13,843人と、大きく減少しています。市の対策を質問しましたが、原因の分析すらしめていないことが露呈しました。子どもの体力向上、大人の健康増進、高齢者の社会参加の促進など、市がもっと理念や目標を持ってスポーツ政策に本気で取り組むべきです。現在策定作業が進められている「スポーツ推進計画」の中で、野球をもっと重視するなど、まちの特性を考慮した理念や明確な目標が示されるよう、改善を求めてまいります。

提言を実現へ③ ～平成25年度予算より

前号で平成25年度予算の概要を掲載しましたが、これまでに提案してきた政策を中心に報告します。

これまでの政策提言が着実に実現へと向かっています。

■子育て・教育環境の向上

○学校教育の充実

- ・学校問題解決支援チームの設置:760万円
(学級崩壊やいじめ問題等の対策の強化)
- ・学校施設空調設備整備事業:3億5800万円
(H25・26中学校の教室にPFI手法にて設置)
- ・学校施設中長期修繕計画事業:1億円
(維持管理の強化、前年度比8600万円の増)
- ・幼稚園での保護者負担の公私間格差の是正:7億1200万円
(私立幼稚園就園奨励金の増額により、子どもたちに幼児教育をより受けやすくする)

○スポーツ・リクリエーション活動の推進

- ・西宮市スポーツ推進計画の策定:120万円
- ・アイススケートリンク利用促進事業:300万円
(県内初の通年型リンクの利用促進)

■安心・安全のまちづくり

- ・山手幹線二次改築・電線共同溝整備事業
(設計):1400万円
- ・西宮市防災マップ更新事業:630万円
- ・通学路の安全対策事業:4600万円
(道路路肩のカラー舗装化)

■場当たり的な行政運営の解消

- ・道路付属施設更新事業:4050万円
(カーブミラー・防護柵等交通安全施設の長寿命化・更新)
- ・市道等無電柱化計画の策定:400万円
- ・施設の中長期修繕計画事業:3億4500万円
- ・施設点検・施設情報整備事業:3000万円
(施設の点検結果・情報の一元管理)

■その他

- ・西宮浜・御前浜公園整備方針の策定:600万円
- ・文教住宅都市西宮の将来像検討:700万円

公立高校普通科の通学区域の拡大について 市民からの「請願」を採択し、県に意見書を提出

平成27年2月に行われる入試(現在の中学2年生の受験)から、公立高校の普通科の通学区域(学区)が拡大されます。西宮市は第2学区(尼崎市・宝塚市・三田市・川西市・伊丹市・猪名川町・篠山市・丹波市)となり、対象の高校となる29校から第1、第2希望を選んで複数志願選抜方式で受験することになります。

平成21年に総合選抜制度から複数志願方式に変更した最大の目的は、子どもたちが行きたい高校を自分で選んでチャレンジできる環境をつくることでした。しかし、今回の制度変更は、前回の変更からまだ5年しか経過していないなかで、多様な学校から選ぶことができるようになる反面、事実上「行きたい」ではなく「行ける」学校を選択せざるを得なくなることが懸念されます。また、入試の点数の半分以上を占める内申書の評価基準の統一化など新制度を実施するために必要な新学区内の各市町での準備が不十分であると、居住地によって有利不利が発生する可能性もあります。そこで、昨年12月議会の一般質問で、「公立高校普通科の通学区域の拡大に伴う課題」について取り上げ、早急な対応を求めています。問題点として、

- ① 各市町の教育委員会間で進路希望調査等の情報共有をする仕組みづくりが間に合わない。
- ② 内申書の評価基準を統一できない。
- ③ 一定の点数を取ればどこかの公立高校に行ける「その他校希望」の廃止によってセーフティネットが弱まる。
- ④ 生徒に進路指導しなければならない教員への詳細な情報提供ができていない。
- ⑤ 保護者への説明が不十分である。

ことが挙げられます。その多くは、県教育委員会が詳細を発表するのが遅かったことが原因です。

そうした状況のもと、去る6月議会では、「その他校希望」の存続と一刻も早く制度の詳細説明を求める旨の意見書を、入試制度の決定権を持つ県教委へ提出することを求める「請願」が、市民から提出されました。私も紹介議員となり、賛成多数で可決、県に意見書を提出しました。

入試制度の変更は、子どもたちに大きな影響を及ぼします。引き続き、保護者への丁寧な説明と生徒への適切な進路指導とともに、公平な入試制度の確立を求めてまいります。

「約束」のかたち：市政報告・意見交換会の開催/市政報告書の作成

定期的に市政報告・意見交換会も行っています。内容や日程につきましては、お知らせを送付いたしますので、郵送先等をお教え下さい。

当報告書のバックナンバーや詳細は、<http://masatake.jp/>

まさたけ

検索



田中正剛 たなか まさたけ

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市会議員事務所に4年間勤務/平成15年4月に西宮市議員選挙初当選

■政党:保守系無所属 ■所属党派:蒼土会 ■現在の担当常任委員会:市民文教常任委員会 ■市議会での主な役職:建設常任委員会副委員長(1期2年目)、厚生常任委員会委員長(1期3年目)、西宮市監査委員(2期1年目)、フレンチ問題特別委員会委員長(2期3・4年目)、病院問題特別委員会委員長(3期1・2年目)、阪神水道企業団監査委員(3期3年目)

ご意見・ご要望・資料のご請求は

西宮市議会議員

田中 正剛 事務所

〒662-0854 西宮市櫛塚町1-14 光永ビル3階
(兵庫県西宮庁舎南向かい)

TEL: 0798-22-5172

FAX: 0798-22-6172

E-mail: nishinomiya@masatake.jp

URL: <http://www.masatake.jp>

